

日本フンボルト協会 2015 年度第 3 回常務理事会議事録

日時: 2016 年 4 月 3 日 (日) 14 時より 16 時 30 分まで

場所: ドイツ学術交流会 (DAAD) 東京事務所

出席者: 廣渡清吾、縣公一郎、西川伸一、櫻田嘉章、浅田和茂、井田良、岡林洋、梶英輔、金武直幸、高橋宗五、高橋輝暁、高山佳奈子、伏木信次、宮崎保光 (中部支部長)
(事務局) 関映子

報告事項

会計報告

別紙「日本フンボルト協会 2015 年度会計収支」参照。

- ・年会費の支払い状況。2015 年 12 月末までに 1649 名の会員のうち 711 名の支払いがあった。12 月末に未納者にメールで督促したところ、87 名の会員から会費の支払いがあった。メールでの督促に効果があった。
- ・印刷費は、留学説明会のポスターやチラシ、会報の費用。
- ・会合費が予算額を超過しているので、今後の節約を考える。
- ・今年度は渉外関係費の支出がない。今後は、海外からのゲストの招待、接待などに使用する。

協議事項

1. 2016 年度総会について (別紙「名古屋で開催する 2016 年度総会について」を参照)

2016 年 6 月 18 日 (土) に名古屋大学で開催

当日のスケジュール

前半	常務理事会	(12:00~12:30)
	理事会	(12:30~13:30)
	総会事務協議	(13:30~14:30)
後半	講演会とコンサート	(15:00~16:30)
	ドイツ留学説明会・留学体験報告	(16:30~17:30)
	懇親会	(18:00~)

検討事項

(1) 会場

- * 利用料金の関係で、現在、法学研究科の施設「アジア法交流館」を仮予約済み。
アジアコミュニティーホール、フォワイエ、セミナールームなどを利用する。
常務理事会、理事会、留学説明会の全体説明会、分科会などの会場の決定。
- * 会場の担当者は法学部の和田肇先生
- * 懇親会場は交流館から徒歩で 2~3 分の学生食堂を予約済み。

(2) コンサート

- *会場は、上記ホールかフォワイエで開催可能。
- *ヴァイオリンの中川さと子さんとチェロリストに依頼する。
- *演奏時間は20～30分とし、ドイツ音楽から選曲する。

(3) 留学説明会

- *2～3名の経験者の話を聴く会にする
- *文科系（法学）、理科系（医学）で各一名の候補者と交渉する。
- *留学説明会の周知を行い、参加者を増やす方策を考える。
- *留学説明会に来た人は懇親会に招待する。

(4) 懇親会

参加予定者の見込みは20～30人。名古屋大学にいるドイツ人留学生（20名弱）にも参加を呼びかけ、懇親会に招待する。

2. 2016年度の留学説明会

7月2日（土）14時からドイツ文化会館にて

（詳細は別紙「ドイツ研究留学説明会開催要領（案）」参照）

- *参加者アンケートから分科会が最も意義深かったとの反応があり、分科会がこの説明会の最重要イベントである。準備と進め方は別紙①～⑤を参照のこと。

*体験を語った若手 Humboldtianer だけでなく、説明会への参加者全員を懇親会に招待する。

経費については、フンボルト財団からの支援の可能性を探る。まずは4月8日に財団の Schildt 氏 Humboldt-Kolleg 参加のために来日するので理事長が面会して相談する。

*若手 Humboldtianer の体験談は、後日 HP に掲載する。

（関東甲信越支部では既に体験談を掲載している）。

*分科会での話についても HP に載せる

*DAAD 奨学金の説明と DAAD の分科会については事務局から DAAD に交渉する。

3. 賛助会員制度の活用について

名誉会員以外の Preisträger に「日本フンボルト協会からのお願い」（別紙参照）を送る。

4. 名誉会員の推薦について（別紙名簿参照）

田中靖郎氏については、昨年度の意向照会に対しての返事が遅れたため、昨年度の総会に提案が出来なかった。今年度の総会で提案を行う。

5. 各支部の活動報告（別紙参照）

（中部支部）

2015年度総会は2015年10月24日（土）KKR ホテル名古屋にて開催した。

それ以降は来年度の総会の準備をしている。

(関西支部)

第2回総会が2016年1月17日(日)午後2時30分より同志社大学寒梅館6階大会議室(京都室町キャンパス)にて開催。27名の会員および同伴者3名の参加があった。議事協議ののち、シンポジウム『詐欺と捏造の系譜』を開催した。

- ・高橋義人会員による「聖遺物と奇蹟——カトリック教会による捏造とその背景」、西川伸一会員による「<イギリス原人>捏造」、浅田和茂会員による「詐欺罪の系譜」の講演があった。
- ・原田英美子会員(2002年 Halle)(滋賀県立大学環境科学部准教授、植物生理学・植物分子生物学・植物細胞工学)、飯島暢会員(2002年 München)(関西大学法学部法学政治学科教授、刑事法学)、フンボルト財団元奨学生の Andre Freire, Cruz 会員(京都府立大学大学院生命環境科学研究科講師、果樹園芸学)が研究内容や留学体験談などを語った。

(関東甲信越支部)

- ・2016年3月27日(日)にドイツ文化会館にて総会を開催した。29名の会員が参加し、DAAD友の会若手会員も招待した。
- ・岩崎英二郎先生の「アドルフ・ヒトラーの自伝をめぐって」と題する講演が行われた。

(東北支部)

- ・東北支部総会は5月7日(土)に東北大学でDAAD友の会と共催で支部総会を開催予定。
開催日時: 2016年5月7日(土曜日) 14:30~18:00(懇親会を含む)
開催場所: 東北大学片平キャンパス さくらホール
記念講演: 「災害ロボティクスの挑戦」 田所 諭会員 東北大学大学院情報科学研究科
懇親会: 会費: 4000円

(九州支部)

- ・6月17日(金)、DAADが九州大学でドイツ留学説明会を開催する。その際に九州支部が総会を開催し、懇親会についてはDAADとの共催でアルムニ会として開催する。
- ・会場はハイアット・リージェンシーのレストラン「ル・カフェ」

(検討事項)

- ・九州支部の場合はすでにフンボルト元奨学生とDAAD元奨学生の支部ができており、会則もそのように制定されているが、フンボルト支部には、日本フンボルト協会の助成金が支払われているので、フンボルト支部総会とDAADの事業を同時に行う際には、フンボルト支部助成金の使途を明確にすることが求められる。

(北海道支部)

- ・7月15日(金)、DAADが北海道大学でドイツ留学説明会を開催する。その際に北海道支部も総会を開催し、懇親会についてはDAADとの共催でアルムニ会として行う。
- ・会場は北海道大学内のレストラン。

1. フンボルト会員の懇親会支援

今年度の助成金残額を来年度に繰り越し、来年度の助成金と合わせて懇親会費用にあてる。

2. ゲスト

札幌ドイツ領事館の名誉領事（サッポロビール社長）をゲストとして招待する予定。（もし、本人の了解が得られれば、フンボルト協会の「賛助会員」として推薦する予定。）

（中四国支部）

- ・ 諸般の事情から、総会開催は予定していない。
- ・ 第二回目の論集発行を予定している。

（支部会則について）

- ・ 5つの支部（北海道、関東甲信越、関西、中部、九州）で制定されている。
- ・ 東北支部は5月の総会で会則が成立する。中四国支部は検討中。

（助成金について）

- ・ 必ず年度末に活動報告と会計報告が必要。フンボルト協会の監査のために必要。領収書は必要としないが、必要に応じてすぐに提出できるよう、各支部で保管する。
- ・ 助成金は繰り越し可能である。

6. フンボルト協会の運営体制について

- ・ フンボルト協会の活動を円滑に進めるために、支部長を常務理事にする件については6月の総会で諮る。

その他の報告事項

1. ホームページの運営について

- ・ 中部支部のバナーができあがった。
- ・ 会員活動報告のサイトができあがった。
- ・ HPに留学についての問い合わせが届くことについて（井田先生の報告）
月に3~4件の問い合わせがある。HPを見れば分かるような質問が多い。
申請の仕方が随時変更されるが対応している。
（フンボルト財団には応募についての変更があった場合は連絡をお願いしたい。）
最近は on-line での申請も可能になったようである。

2. DAADのアジア会議「自然科学の会」（別紙プログラム参照）

- ・ 6月3日から5日まで開催。ドイツ文化会館と筑波大学東京キャンパスで開催。
医学系の催しであったものが、工学が前面に出てきている。
- ・ 講演者および参加者の旅費とホテル代はフンボルト財団で負担。

3. フンボルト財団のデータと協会のデータの齟齬

- ・協会に登録がありながら財団のほうのリストにない人が約 180 名いる。
- ・協会が把握していない人が約 120 名（年配者、留学中の人、外国在住の人）おり、連絡が可能な人には会員になるよう依頼する。

4. Humboldt-Kolleg について（別紙参照）

4月9日（土）と10日（日）に東京大学駒場第一キャンパスにて開催

- ・Humboldt-Kolleg の本来の趣旨は Humboldtianer とドイツの研究者の学術交流を図るものであるが、Humboldtianer だけに参加を限定すると、参加者やテーマ設定に広がりがない。もう少し自由にできるようにしたいとの要望が寄せられたので、Humboldtianer 以外の参加も認められるようになった。ただし、参加者数の中に参加すべき Humboldtianer の割合が決められている。

5. ジーボルト受賞者の会合

中村英夫会員（シーボルト賞受賞者）の呼びかけで、4月7日（木）、日本のシーボルト賞受賞者が、フンボルト財団に何らかの「恩返し」をする趣旨の会合がもたれ、三島、山田先生等 10 名ほどの参加者があった。具体的な案はまとまらなかった。

（以上）